

あとがき

2005年度表現論シンポジウムは、静岡県掛川市のヤマハリゾートつま恋にて、11月15日(火)から11月18日(金)まで開催されました。

今回は、表現論シンポジウム Old&New ということで、二つの企画を実行しました。「若手のコーナー」の設置と講演集巻末の小特集「表現論シンポジウムの歴史(初期)」です。前者は、表現論(広義)の若手の交流をはかりまたシンポジウム参加者に近接分野の若手にどんな人がいるのか知ってもらおうとの趣旨で恐る恐る立てた企画ですが、幸い 10 名もの講演者に恵まれ、加藤さん・甲斐さんという名若手コーディネーターのもとに実施されることになりました。後者については、興味深い記事を短時間で仕上げてくださった辰馬・熊原両先生、そして企画にご協力頂いた平井先生を始めとする諸先生方に感謝いたします。

今年度の概説講演につきましては、小林俊行さん、秋の学会で解析学賞を受賞された藤原英徳さん、このお二人が快く引き受けて下さいました。

シンポジウム開催にあたっては以下の科学研究費補助金から援助を受けています。

本講演集の製本・印刷費:

「ユニタリ表現の分岐則の理論と幾何構造の変換群による非可換調和解析」小林俊行(基盤研究(B)(2)課題番号 14340043)

会場費:

「対称空間のスタイン拡張と旗多様体上の軌道対応」松木敏彦(基盤研究(C)課題番号 17540074)

「アフィン商写像と不変微分作用素環」西山 享(基盤研究(B) 課題番号 17340037)

旅費(世話人が直接把握しているもの):

「概均質ベクトル空間と超局所解析の研究」室 政和(基盤研究(B) 課題番号 15340042)

「簡約群の幾何学的不変量と積分変換」落合啓之(基盤研究(B)(2) 課題番号 15340005)

「アフィン商写像と不変微分作用素環」西山 享(基盤研究(B) 課題番号 17340037)

「群作用をもつ多様体上の微分方程式系の研究とその応用」大島 利雄(基盤研究(B) 課題番号 16340034)

「非可換特殊関数の表現論と双対性」梅田 亨(基盤研究(B) 課題番号 16340039)

等

この他にも準備や運営にあたり多くの方にご協力を頂きました。御礼を申し上げます。

2005年度表現論シンポジウム世話人

青木 茂(拓殖大学工学部)

加藤末広(北里大学一般教育部)

織田 寛(拓殖大学工学部)